

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年3月22日

事業所名 多機能型事業所なんくるみいたあち

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	4	1	指定基準のスペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	6	2	0	指定基準以上の人員を配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3	4		現段階で必要とする利用者がいないため、施設内に段差などあり。必要に応じては、設備の見直しをする。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	0	申し送りや、全体ミーティングを行い、業務改善を図る。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1	0	アンケートを配布し、保護者の意向を把握、業務改善へと繋げている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2	0	ホームページで公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	2		現在、第三者による外部評価は受けていない。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	0	年3回の社内研修と専門的な研修を開催。また、外部研修に積極的に参加している。		
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	職員間で情報共有、意見交換の時間を設け、児童発達支援計画・評価を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	0	医療機関で受けた発達検査結果を保護者より情報提供していただき、児童の全体像の把握や支援計画の立案に参考になっている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2	0	申し送り、全体ミーティング等で職員の話し合いを行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	0	毎朝の申し送りと全体ミーティングで話し合い、行事の見直しを行っている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2	0	平日、休日、長期休暇に応じて一日の活動、過ごし方を設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	0	子どもの特性や状況に応じて、個別と集団を組み合わせ、児童発達支援計画を作成している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	1	申し送りにて、その日の内容や役割分担の共有を行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3	1	申し送りや、全体ミーティングの場で、支援の振り返りや気づいた点の共有を行っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2	0	活動記録の記入を行っている。	

18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0	計画の中間評価を定期的に行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7	1	0	放課後等デイサービスガイドラインに沿って活動を行っている。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	0	児童発達支援管理責任者や管理者が代表して参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	1	学校のお迎え時に、担任と情報共有を行っている。必要に応じて電話連絡等を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2	1		現段階で必要とする利用者がいないため、行っていない。必要に応じては、連絡体制の整備を行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	1	0	必要に応じて情報共有を行い、相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	0	1		対象となるケースが出た場合、必要に応じて情報共有を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	1	機会があれば積極的に参加する。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	0	1	併設する学童保育「あんじな」の児童との交流や活動を行っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4	0	参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0	基本的に保護者に事業所へのお迎えをお願いしており、直接話す時間を持っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	3	1	必要に応じて支援や情報提供等を行っている。		
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	0	運営規程、重要事項説明書に基づいて説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	0	保護者の要望に沿って対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	5	0	コロナの影響で今年度保護者会は開催を控えた。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0	苦情ボックスを設置している。また、連絡帳でのやり取りやお迎え時の対応等でいただいた保護者からの意見や苦情に迅速に対応し、報告も行う。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	0	ニューズレターや案内を定期的に発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0	個人情報に関する誓約書を交わし、情報保護に努める。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	0	ベビーサイン、絵カード等を使用する。保護者への連絡帳やメモで様子を伝える。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1	1	フリーマーケット等、地域の方を招待するプログラムを企画運営している。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	4	0		保護者への周知が不十分なので、今後実施していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	4	1	年2回実施。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	1	職員を研修へ積極的に派遣し、社内で共有する。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	3		対象となりうる状況が起きた場合、どのような場面で身体拘束を行うか、今後検討していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	0		現段階で必要とする利用者がいないため、行っていない。状況に応じて、連絡体制の整備を行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	4	1		申し送りやミーティングで情報共有を行っているが、事例集の作成は行っていない。